

郡市医師会 だより

李 啓充 先生をお招きして

札幌市医師会理事
政策部長

今 眞 人

平成18年3月17日、札幌市医師会館で医政講演会を開催した。「医療費抑制のための医療改革の愚かさ：米国の失敗から学ぶ」という題目で、李 啓充 (Kaechoong Lee) 先生にご講演いただいた。

あまりにもご高名な先生ゆえご紹介の必要もないと思うが、簡単にご紹介する。昭和29年東京生まれ、昭和55年京都大学ご卒業後渡米、平成10年ハーバード大学助教授を経てご退官文筆業に専念されている。「市場原理が医療を減ぼす」等著書多数である。

意外にも野球に対しての造詣が深い。

札幌講演当日は、ワールドベースボールクラシックで、米国がメキシコに敗退し、ほぼ絶望視されていた日本の準決勝進出が決まった当日のご講演となったが、大変に喜んでおられた。決勝当日にも東京で講演予定となっており、「内緒で携帯テレビを演壇に持ち込み観戦しながら講演しようか」などと人なつっこい笑顔で冗談を言われるほどの大の野球ファンであるという一面もある。週間文春に大リーグのコラムを連載されている。

非常にご多忙な氏であるが、マサチューセッツ州ニュートンから札幌までご足労いただいた。

氏が分析した日本の医療制度の特徴として1)医療費抑制のみが声高に論じられている。

「小さな政府」論に基づく医療費の公的給付抑制、言い換えると国が支払う医療費を抑制したいという強い動きがある。

その一方で

2)医療におけるビジネス・チャンスの創出をめざす勢力が医療の「規制改革」を主導し、市場原理・競争原理を導入、株式会社病院設立、混合診療の解禁、等々医療でお金を儲けようという勢力がある。

1) 2) は一見して矛盾しているが「公」を減らして「民」をふやした「二階建ての医療保険制度 (米国型の医療保険制度)」を実現すれば、それは国民が幸せになるのだと主張する金儲けのための勢力が力を強めていると警鐘をならしている。

平成17年12月に、規制改革民間開放推進会議の民間議員、吉川 洋東大教授が道医講演で言っていたことと合致する。吉川氏は総医療費はいくら伸びてもかまわない、しかし公的医療費は財源論である。ない袖は振れない。ないものはない。したがって縮小しなければならない。増大した総医療費と縮小された公的医療費の狭間は、患者負担でいだろうと。つまり、保険給付部分は縮小し、混合診療を導入して弱肉強食の医療制度にすればよいといていた考えであり、まさに小泉内閣の方針なのである。

氏はこの考え方を真っ向から否定している。

日本の国民負担率は必ずしも高くないこと、しかし社会保障費の還元率はかなり低いこと、日米医療費の格差、営利目的の民間医療保険会社が医療に入った場合の恐怖、米国における無保険者の実態、米国医療費借金地獄の実態、米国営利病院の巨悪、混合診療の問題点等々、世界各国の現状を分析しながら



李 啓充先生

市場原理主義の弊害を指摘した。

日本における現状は「患者の権利」を保証し、「医療の質」を向上するために、何をなすべきかという医療の本質であるべき議論が背景に押しやられている。と声高に述べていた。患者の権利保障と医療の質を向上させるための直接の施策が必要であり、現状の診療報酬支払い方式の変更で質の改善は達成されない。コスト削減からコスト効率改善への発想の転換が必要であると結論づけた。

講演は市場原理主義の代表であるアメリカ型医療の現状がいかに悲惨なものであるかを極めて丁寧に、わかりやすく、実例を交えながら伝えていただいた。

講演後、一つだけ質問をぶつけてみた。

私は東京で10年間救急医療専従で仕事をしてきたのだが、若かりしころ、あるアメリカの医師と話した際に非常に違和感を持ったことがある。ICUで懸命の集中治療を行っている私の横で彼は問うた。Dr. A「この患者の社会復帰できる確率は何パーセントくらいあるのか？」私：「おそらく5%以下だと思う」Dr. A「ならば、なぜ治療を続けるのか？この患者は極めて高額な治療をしている。この患者が社会復帰して、今までかかった医療費を社会に還元できると思うか」私：「1%でも可能性があれば全力を尽くすのが当たり前ではないのか？」Dr. A「死亡する確立は95%以上だ。社会資源の無駄遣いではないのか？」堂々巡りであった。この問答に対し、李先生

はどう思うかという質問をした。彼はしばらく考え、そして微笑みながらこういった。

「私の訳書のなかに、『医者心が開くとき』という本がある。その中の一編にこんなエピソードが載っている。一人の患者の命が燃え尽きたとき、私たちがどんな医療行為を患者さんにしようとも、患者さんが一番覚えているのはきっと私たちが患者さんに示した思いやりだと思うというフレーズがある。そういうことだ」私が記憶している氏の回答はこのようなものだったと思う。

私は翌日急いでamazon.comで同書を上下巻注文した。確かにこのフレーズは上巻114ページに記載されていた。ニュアンスの違いは多少あるかもしれないが興味ある諸兄はご参照いただきたい。良書だと思います。

鋭い時代分析や洞察力と、ぐいぐいと引っ張っていく弁舌の裏に隠れた、彼の優しさを垣間見た気がした。大変有意義な時間であった。現在の政府の導こうとしている医療政策の「うそ」を暴いていただいた。もっと、もっと多くの医師会員と共有したいと切に思う。

ご講演の内容は、札幌市医師会ホームページ上で公開予定といたします。また、李先生のご好意によりDVD等で医師会内でのクロードの講演会であれば映像、音声提供は原則可能です。お問い合わせは、札幌市医師会事務局 野沢和彦君までお願いいたします。

道医報表紙写真募集中！

本誌表紙を飾る写真を募集いたしております。

会員各員におかれましては、季節を織り込んだ傑作をどしどしお寄せくださいますようお願い申し上げます。

ご応募いただいた作品の採否および掲載号は、広報委員会において決定いたします。作品のご返却について明記してください。

また、横位置でのトリミングが必要な場

合も明示願います。

フィルム：ポジカラー（スライド）の方が鮮明に仕上がります。

デジタル：JPEG等の画像データをE-mail (ihou@m.doui.jp)、その他の媒体でお送りください。

コメント：題名、説明等を200字程度にまとめ添付してください。

—情報広報部—